

# 成田空港と羽田空港の国際線発着回数増加 による経済波及効果の計測結果について

---

## (1) 経済効果の計測対象

成田・羽田の国際線発着回数増加は、訪日外国人・海外渡航日本人の増加による国内消費等の増加(空港関連産業の売上増を含む)や輸出入・物流の活性化等と、これら効果による生産拡大がもたらす雇用・税収の増加等、さまざまな経済効果をもたらすと考えられる。

今回は国際線の人流の増加がもたらす経済波及効果にスポットを当て、以下の効果を計測対象とする。

### 外国人流動に関する効果(訪日外国人の国内消費)

成田・羽田を利用して海外から訪日する外国人が、空港内や全国各地において消費する宿泊・交通等の消費額の増加による経済波及効果を計測する。

### 日本人流動に関する効果(羽田・成田へのアクセス消費)

全国各地からの成田・羽田の国際線利用者に関して、全国各地から成田・羽田までのアクセスに係る消費額(交通費)の増加による経済波及効果を計測する。

なお、その他物流等に関する経済波及効果の計測については、両空港の増加枠に就航される国際線の具体的な就航先、便数等の確定に合わせて改めて実施することとする。

## (2) 計測結果に係る留意事項

本推計では、将来の発着回数増加分がすべて利用され、発着一回当たりの乗降客数が2007年度と同水準を維持するものと仮定した。ただし、羽田の増枠分のうち3万回は深夜早朝時間帯であることや今後の景気動向、機材の小型化等により、この仮定が満たされない可能性がある。また、成田・羽田の国際線の拡大により、他の空港の利用客が減少することや国内旅行から海外旅行へのシフトといったマイナスの影響も想定されるが、本推計ではこの点は考慮していないことに留意する必要がある。

## (1) 空港容量拡大による国際線発着回数増の設定

【成田空港】

現状(2007年度実績) : 国際線17.8万回      2011年以降 : 国際線19.8万回  
(国際線2.0万回増)

【羽田空港】

現状(2007年度実績) : 国際線(チャーター便) 昼間0.9万回  
2011年以降 : 国際線(定期便) 昼夜 6.0万回 (昼間3.0万回 + 深夜早朝3.0万回)  
(国際線5.1万回増)

## (2) 将来の国際旅客需要の設定

2011年以降の成田、羽田(昼間)、羽田(深夜早朝)別の国際旅客便発着回数を設定。

2007年度の一便当たりの乗降客数を に掛けて、2011年以降の成田、羽田の乗降客数を推計。

2007年度の乗降客数の実績と で推計した2011年以降の乗降客数の差分を空港容量拡大による増加分とし、これをもとに経済波及効果を計測。

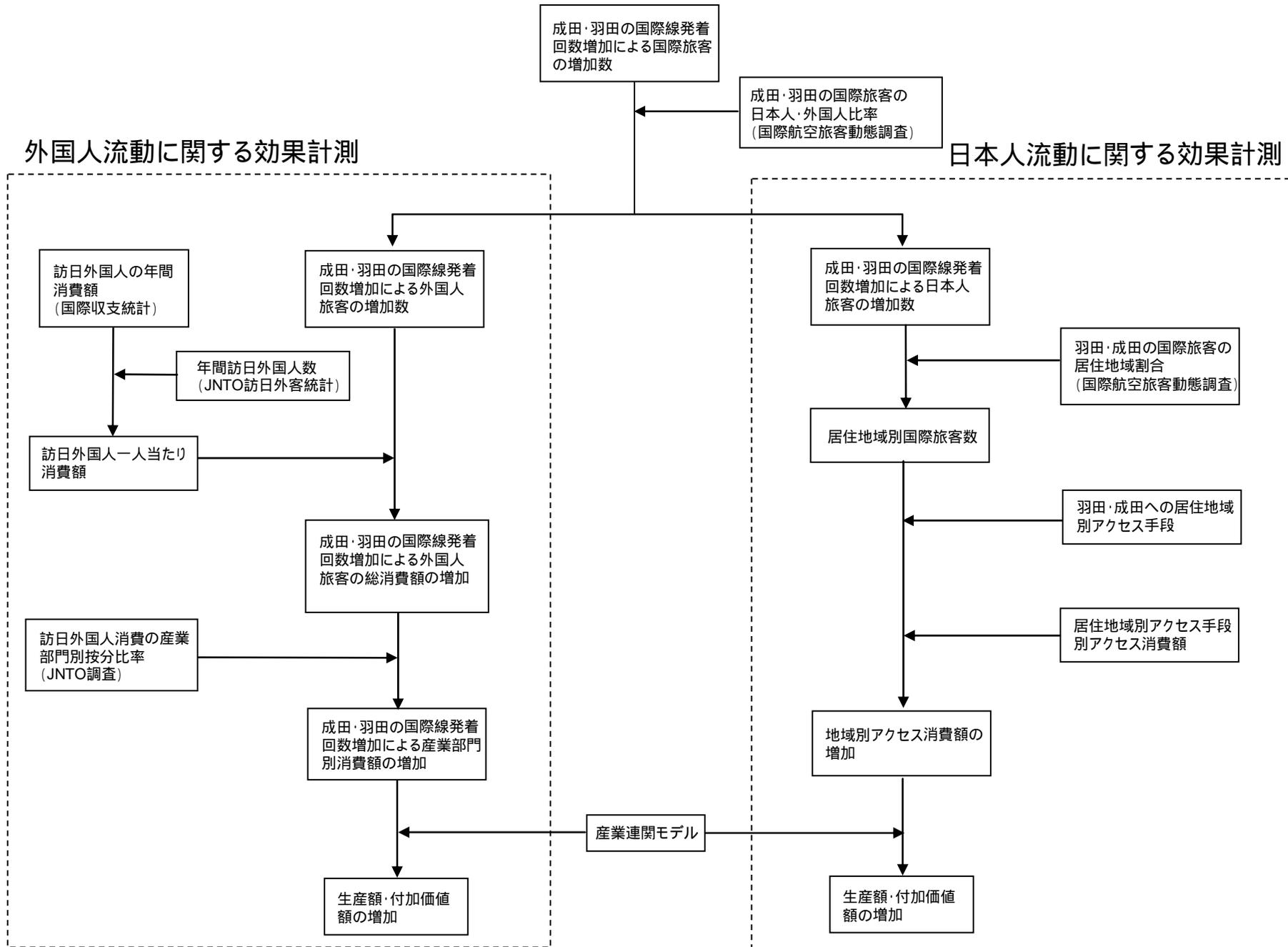
## (3) 効果計測方法

訪日外国人の国内消費の増加分 = 「訪日外国人の増加分」×「訪日外国人一人当たりの国内消費額」

海外渡航日本人の空港アクセス消費の増加分 = 「居住地域別海外渡航日本人の増加分」

×「一人当たりの空港アクセス消費額(往復)」

上記の直接効果をもとに産業連関表を用いて、2011年以降の成田・羽田の国際線発着回数増加後の外国人流動、日本人流動の増加(年間ベース)による全国への経済波及効果を計測する。

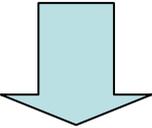


2011年以降の国際線発着回数増加に伴う  
 訪日外国人増加数 219万人  
 海外渡航日本人増加数 387万人



消費額の増加

訪日外国人増加による国内消費額の増加 3,737億円  
 海外渡航日本人増加による空港アクセス消費額の増加 374億円



経済波及効果

	訪日外国人	海外渡航日本人	計
生産誘発額	8,896億円	908億円	9,804億円
付加価値誘発額	4,488億円	447億円	4,935億円

経済波及効果を産業部門別に見ると、生産誘発額では「旅館・その他宿泊所」、「航空輸送」、「商業」、「飲食店」、「食料品」などの観光と関連が深い産業部門において、特に大きな効果が見られる。

### 産業部門別経済波及効果

(訪日外国人、海外渡航日本人計)

